2018年度

社会貢献活動報告書

2018年度 社会貢献活動報告書発行にあたり



花王グループは、花王ウェイ(企業理念)を基本に、豊かな生活文化の実現に向けて、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに社会貢献活動を継続してきました。2012年からは、「環境」「教育」「コミュニティ」の分野に重点をおき、企業市民として社会の基盤を支え、より良い社会づくりに貢献していくために活動を行なっています。

一方で近年、社会の基盤を支える企業市民としての活動とともに、事業を通じて社会へ貢献する取り組みが求められており、2018年7月に、ESG(環境・社会・ガバナンス)部門が新設されました。社会や消費者のエシカルな潮流をとらえ、長期的な観点から、事業の持続的な成長と社会づくりの実現をめざしていきます。

企業市民としての活動、また、事業を通じた社会への貢献が一体となり、一つの方向を向いて進んでいくことが重要です。花王グループは「きれいを、こころに。未来に。」をキーコンセプトに、グループ全体でこのメッセージに込められた思いを共有し、具体的な取り組みを推進してまいります。そして、"きれい"に内包される花王らしい活動を通じて、グローバルな社会課題の解決や社会のサステナビリティに貢献してくことが、結果として、花王の企業価値の向上へつながると考えています。

本報告書では、2018年度の社会貢献活動を振り返り、国内外花王グループ各社も含めた主な活動を総括いたしました。ご一読いただき、花王グループの社会貢献活動の全体像と各活動をご理解いただけましたら幸いです。

2019年4月

花王株式会社

- 目次 -

•	2018年度社会貢献部活動報告書発行にあたり	2
•	目次	3
•	花王の社会貢献活動の考え方	4
•	2018年活動トピックス	5
•	環境	6
•	教育	9
•	コミュニティ	14
•	社員参加型の活動	21
•	メセナ	24
•	東日本大震災への対応	27
•	海外での活動	31
•	災害支援	35
•	国内事業場、国内外グループ会社の主な地域貢献活動	38

花王の社会貢献活動の考え方



<テーマ> 次世代を育む環境づくりと人づくり

- <活動方針> · 次世代の育成に役立つ活動を行ないます。
 - ・地域の社会・文化の発展に貢献することをめざした活動を行ないます。
 - 持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行ないます。
 - 社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行ないます。
 - ・花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行ないます。
 - 一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。

<全体像>

社会貢献活動全体像

次世代を育む 環境づくりと人づくり より良い環境を次世代に 未来を担う子どもたちのた 多様なコミュニティと共により 引き継ぐために、環境保 めに、花王のリソースや強 良い社会を築くために、地域 全のみならず環境を守り みを活かした活動を推進し 社会やNPO・NGOと連携し 育てる人づくりを両輪で推 ます。 た活動を推進します。 進します。 コミュニティ 育 環 境 教 計員参加型の活動 メセナ 公益財団法人 花王芸術·科学財団

公益財団法人 花王芸術・科学財団は、芸術文化と科学技術への助成及び研究者の顕彰等を通じて、日本の芸術文化と科学技術の振興 及び発展向上に寄与することを目的としています。 http://www.kao-foundation.or.jp/

2018年 活動トピックス



■ピンクリボンキャンペーン

乳がんの早期発見の大切さを啓発するピンクリボンキャンペーンを、2007年から毎年10~11月の2か月間実施。現在は日本を含めた9か国・地域で展開している。2018年から、現在日本で2人に1人がかかるといわれるがんの正しい理解を促すため、ピンクリボンアドバイザーによる中学校・高校での「がん教育プロジェクト」の支援を開始した。

⇒詳細は、23ページ参照

■情報のバリアフリー

日常生活に欠かせない製品を提供する企業として、社会に暮らすすべての人々が、 分け隔てなく快適で豊かな日常生活を営んでいくことができるよう、特に、視覚 障がい者や高齢者に向けた情報のバリアフリーを推進している。

2018年は、化粧品の点字シールを、使用量や使用順のシールを追加するなど、より実生活で使いやすいものに改訂。また、初経教育教材「からだのノート おとなになるということ CD版」を、生活場面により具体的に配慮した情報を加え改訂を行なった。

⇒詳細は、19ページ参照

■ベトナム学校衛生プロジェクト

2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援している。衛生施設の改善、衛生啓発、衛生リーダーの育成などの活動により、対象地域であるメコン川流域のアンザン省で、累計240の村の屋外排泄根絶達成を後押しした。アンザン省での成果を受け、2018年から住民の大多数が少数民族で構成される北部山岳地域のディエンビエン省に支援を拡大した。

⇒詳細は、33ページ参照





■社会貢献活動費実績

日本経団連の要請に基づき、花王グループの社会貢献活動を把握するため、国内外の各関係会社・事業場・担当部署に「社会貢献活動実績調査」を実施。2018年度は、社会貢献活動費(含む寄付金)は、花王グループ全体で10億7455万円となった。



環境

次の世代へ自然を受け継いでいくために、自然との触れ合いなどで環境保護への意識を高めることが必要だと、私たち花王は考えます。地域の緑化活動を行なう市民団体の支援や、地域の子どもたちの環境教育に取り組むことなどで、地域に密着した環境保全活動を支援しています。



花王・みんなの森づくり活動





■プログラム概要

緑豊かな環境づくりと、その環境を次世代に引き継ぐための環境を守り育てる人づくりを支えるプログラム。全国から森づくりや環境教育などに取り組むNPO・市民団体を公募し、毎年20件程度を選定、3年間の継続助成を行なう。また、環境保全活動を通じて、現代の地域社会が抱えるさまざまな課題解決への貢献や、地域のより良いコミュニティ形成にも寄与している。

2000年から2018年までに支援した団体数は累計で462件となり、これは都道府県が把握する森づくり団体数約3,000の15%弱に相当する。

共催:公益財団法人 都市緑化機構

<2018年の活動>

【助成件数】15団体 (2017年度募集助成団体/ 助成期間:2018年3月~2021年3月)

- ・2018年5月21日 助成目録贈呈式を実施(花王本社)
- ・新規助成団体への活動視察、 ヒアリングを実施

■助成団体からの声

- ・様々な自然環境とふれあう体験学習を提供できる団体は少なく貴重なため、地元の教育機関から今後も継続実施することが望まれている。また、子どもと他の場所で顔を合わせると、次が楽しみだと声をかけられるようになった。子ども達は、より自然環境に興味を持つようになり、もっと学びたいと思うようになっている。
- ・草が生い茂る頃には草刈を、大雨で足場が悪くなったところには砂利を敷いてくれたり、側溝の掃除をしてくれたりと、まちの建設会社や団体が率先して協力してくれるようになり、里山や森への関心の高まりを感じる。また、その協力してくれる団体の人々も自主的に山を歩くようになり、あらゆる角度から山へ関わりを持つ人が増えた。
- ・環境教育を実施したことで、地域内での知名度向上につながり、森林 保全整備や木の伐採などの林業に関する依頼・相談も増えてきた。近 隣周辺だけではあるが、地域に根付いた団体になっていると感じた。

<u>詳細リンク:2018/3/1 「花王・みんなの森づくり活動」2017年度支援団体決定</u>

<u>2018/6/26 「花王・みんなの森づくり活動」 2018年助成目録贈呈式を開催</u>

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト





■プログラム概要

東日本大震災で津波の被害を受けた地域の生態系の変化を調べるため、 東北大学の教授を中心として、市民や学生、複数の企業から集まったボ ランティアたちがチームとなってモニタリング調査を行なっている。 被災前のデータと比較することで、津波がどれだけの影響を及ぼしたか、 またその後生態系がどのように回復しているかを記録している。この調 査で得られたデータは、被災地域の生態系や希少種の保全、環境に配慮 した復興計画のために役立てられる。

2013年から、社員がボランティアとして参加している。

主催:認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン

<2018年の活動>

【参加人数】社員ボランティア10人

※2013年~2018年累計:58人参加

<今後の取り組み予定>

2020年まで毎年社員を派遣

■参加者の声

- 調査を主体としたボランティアに初めて参加したが、人と生態系との 調和を考えるよい機会となった。
- ・一歩外へ出て、社外の方や志高く暮らしている方々とふれあい、日々 の生活や仕事に対してよりポジティブになれた。 ____________
- ・ボランティアもエコ活動も、ともに自分が 「体感」することが大切だと感じた。 今後は継続していろいろな取り組みに参加し、

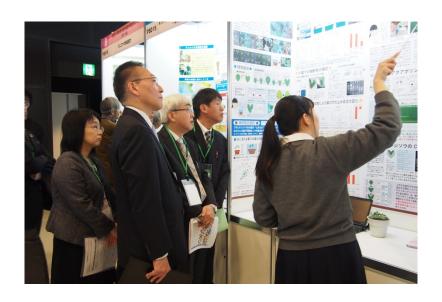
そのことを問りに 伝えていきたい。





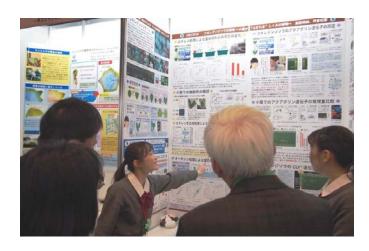
教育

豊かな文化をもつ社会を育み、未来につなげていくためには、優れた学術・教育が不可欠であると、花王は考えます。私たちは、社員による出張授業や理科教育支援、事業での知見をいかした教材の提供を行なっています。



JSEC(高校生科学技術チャレンジ)





■プログラム概要

高校生のための科学と技術の自由研究を競うコンテスト。理科離れが 叫ばれる中、将来の科学技術を担う人財育成に貢献するため、2005年 から協賛。2016年からは特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を贈呈 している。各賞は、花王研究員が論文を査読して行なう事前審査と、 最終審査会でのポスター発表により決定される。

花王賞受賞校には、米国での国際大会国際学生科学技術フェア(ISEF)の出場資格が与えられ、花王特別奨励賞受賞校には、花王研究員との交流会「スタディツアー」が贈られる。スタディツアーでは、花王の研究施設の見学や研究員と研究内容についての討議などが行なわれる。主催:朝日新聞社・テレビ朝日

<2018年の活動>

- ・JSEC2018最終審査会 2018年12月8~9日開催(日本科学未来館) 花王賞 1校、花王特別奨励賞 2校を贈呈 (2005から累計24校に贈呈)
- ・スタディツアー 2018年3月12~13日実施(すみだ事業場)
- Intel国際学生科学技術フェア(ISEF) 物理学・天文学部門:優秀賞4等 (熊本県立宇土高等学校、成松紀佳さん、 小佐井彩花さん、高田晶帆さん)

<**今後の取り組み予定>** 2019年度も継続して特別協替実施。

■活動詳細

【花王賞】

・「馬鈴薯澱粉の酸加水分解に伴うョウ素呈色の不思議な色変化の発見」 (福岡県立明善高等学校 庄山隼斗さん、林田ももこさん、 山本直太朗さん)

【花王特別奨励賞】

- ・「フギレデンジソウの研究 〜小葉が "ふぎれる"しくみの解明〜」(ノートル ダム清心学園清心女子高等学校 前田萌絵さん、坪倉妃那さん)
- ・「鉄ー硝酸の化学振動 ~電気刺激を与えず振動反応を再現する新しい方法の研究~」(北海道旭川東高等学校小川詩織さん、池川日央里さん、三宅渉太さん)



花王・教員フェローシップ





■プログラム概要

生物多様性保全の大切さを次世代に伝えることをめざして、小中学校の教員を対象に、海外の野外調査プロジェクトへボランティアとして参加する機会を提供。教員が現地で得た自らの体験や感動が、学校や地域での環境教育で生かされることを目的としている。また環境教育の実践者である教員に参加いただくことで、子ども達や地域への波及効果を期待している。

2004年から支援開始し、累計で80プロジェクト、158人が参加。

共催:認定NPO法人 アースウォッチ・ジャパン

<2018年の活動>

【参加者数】10人(小中学校の教員; 東京、富山、群馬、千葉、大阪)

·11月3日 活動報告会実施(花王本社)

<今後の取り組み予定>

2019年の実施を最後にプログラム終了。 後日、活動成果をまとめ広く発信予定。

■参加者の声

- ・授業を通じて調査に携わる人々の姿を見て尊敬の念を抱き、自分も やってみたいという意識が生まれた。知ることによって世界が広が り、未来の環境を守る一歩となってほしい。(東京都小学校教諭)
- ・研究者から調査に対する熱い思いと、それを楽しむ明るさを感じた。 日々の教育でも、真剣な中にも明るさを失わず、 熱意をもって取り組むことの重要性を改めて考え

させられた。(東京都小学校教諭)

・子どもたちの一番近くにいる教員が、見たこと、 体験したことを伝えることで、子どもたちの純粋 な心や感性に大きな影響を与えると思う。子ども たちの心に残り、いつか思い出して自分にできる ことをしようと思ってくれることを願っている。 (千葉県小学校教諭)



詳細リンク: 2018/2/27 2018年度「花王・教員フェローシップ」募集開始

2018/12/5 「花王・教員フェローシップ」参加報告会を実施

出張授業、教材提供





■プログラム概要

生活分野で事業をする企業として、未来の担い手である子どもたちが 「持続的な地球環境を考える力、清潔で健康的な暮らしをおくる力」を 育めるように、花王の事業とかかわりの深い「清潔」「健康」「環境」 の分野で出張授業を実施している。具体的には、社員が講師となって 学校を訪問し、「手洗い講座」「おそうじ講座」「環境講座」を行なっ ている。

また、子どもたちの理解を深めるために、「清潔」「健康」「環境」分野での教材を提供し、先生方に活用いただく活動も行なっている。

<2018年の活動>

出張授業、教材提供のほか、2018年度は 下記の2つに注力した活動を実施

- ・包装容器講座プログラムの開発
- ・ろう学校での出張講座実施 (2018年1月と12月、東京都立大塚ろう 学校城東分教室で開催 全2件)

<今後の取り組み予定>

今年度も継続して出張授業、教材提供を 実施

■活動詳細

・出張授業3講座計135校で実施。受講児童数9,773人、参加社員数806人

手洗い講座	小学校低学年	88校/5940人(参加社員508人)
おそうじ講座 小学校低学年		27校/1927人(参加社員200人)
環境講座	小学校高学年、中高生	20校/1906人(参加社員98人)

教材提供合計で2.460校に提供。

手洗い講座 「手洗いの時間」	小学校低学年	1583校
おそうじ講座「お家のおしごと」	小学校低学年	33校
いっしょにエコ日記	小学校4年生	484校
環境のことを考えた快適なくらし	中学校家庭科	171校
よりよい衣生活と環境の創造をめざして	高等学校家庭科	189校

・その他活動 教育関係者への研修会 4回

詳細リンク:出張授業

工場、ミュージアム見学を通した学校教育支援





■プログラム概要

生活に身近な商品を生産、提供する企業として、モノづくりの工夫や品質、安心安全ための努力、環境への配慮を学んでもらうため、ミュージアムや工場見学を通した学校教育の支援を行なっている。

特に、小学校の社会科単元(3年:働く人と私たちの暮らし、5年:私たちの生活と工業生産)に連動したプログラムを開発し、事前・事後の学習も含めた教材の提供、工場見学を含む、学習型の社会科見学プログラムを実施している。

プログラムを通して、子どもたちが社会との結びつきに気づき、自ら考える力を育むことを目指す。

<2018年の活動>

花王国内10工場見学者総数 64.6千人 見学した学校数 813校 見学した学生数 33.9千人

社会科見学プログラム

受講校数 327校 受講者数 21.8千人

<今後の取り組み予定>

今年度も継続して社会科見学プログラム を実施

■活動詳細

花王の各工場では様々な社会科見学プログラムを準備。環境やモノづくりの工夫について学習するとともに、内容に合わせて、泡立ち実験、汚れ落ちメカニズム実験やスキンケアクリームづくり体験を実施。参加した小学生からは、「不良品を一瞬で見分ける機械はすごい」「人とロボットが協力して働いていて驚いた」「とても衛生的な部屋で生産していて感動した」などの感想があった。

工場	対象学年	内容
和歌山+	小3、5	環境に配慮したモノづくりの工夫と働く人との 係りを知る
豊橋	小5	少量多品種の製品を作る工夫を知る
小田原	小 3	化粧品と安全な製品づくりの工夫を知る
川崎	小5	環境に配慮したモノづくりの工夫を知る
鹿島	小3	原材料を作る工場で働く人の役割を知る
酒田	小5	紙おむつの工場で働く人の工夫や努力を知る



コミュニティ

持続可能なよりよい社会を築くためには、多様なコミュニティと共生していくことが重要だと花王は考えます。地域社会やNPO・NGOと連携して、社会課題の解決に向けた支援や、地域のニーズに沿った活動を推進しています。



花王社会起業塾





■プログラム概要

花王は、持続可能なよりよい社会を次世代に引き継ぎたいと考え、2010年より、社会課題をビジネスの手法で解決しようとする若手社会起業家の育成を支援する「花王社会起業塾」を実施している。

「これからの新しい生活文化をつくる」をテーマに、生活者に寄り添い、よりよい暮らしに向けた基盤づくりに取り組む社会起業家を支援する。6カ月にわたり、専門家からのアドバイスを受ける機会や合同研修、人的交流・ネットワークの場を提供し、事業の軸をつくり、成長を加速させる支援を行なう。

運営:社会起業塾イニシアティブ(特定非営利活動法人ETIC.と複数企業が連携して社会起業家を育成・支援するプラットフォーム)

<2018年度の活動>

・3組の起業家を支援 2018年までに累計26組を支援

(集団研修)

- ・9月17日~19日 キックオフ合宿
- ・11月7日~8日 戦略合宿
- ・2019年1月16日 レビューミーティング
- 2019年3月13日 最終報告会
- ・仮想理事会 (VBM) を各起業家2回以上実施 (先輩起業家や専門家との経営課題戦略 会議)
- 11月6日 社内オープンダイアログ開催 グループ社員58名が参加(すみだ事業場)
- **<今後の取り組み予定>** 来年度も継続予定

■活動詳細

【2018年支援対象起業家】

- ・千葉 彩さん (一般社団法人RAC代表理事) 「SOSの声をあげられない子どもたちが、安心して暮らせるような 里親の普及啓発」
- ・塚﨑 康弘さん(アップシードビーンズ〈株〉代表取締役) 「生徒のココロのケアから、復学支援、職業観育成まで行なう学習 支援塾『ビーンズ』」
- ・牧野 友香子さん (〈株〉hanabana 代表) 「聞こえなくても日本語力を徹底的に身につけ るサービス ~難聴者の未来を華やかに~」

【社員と社会起業家との交流】

2017年度卒塾生の成果報告と2018年度塾生の活動紹介、アイデア交換会を行なう社内オープンダイアログを開催。

■詳細リンク:次頁

花王社会起業塾



■詳細リンク

- ●2018/5/10 「花王社会起業塾」2018年度塾生の募集開始
- ●2018/9/13 「花王社会起業塾」2018年度支援対象起業家決定
- ●2018/12/10 「花王社会起業塾オープンダイアログ」を開催
- **●2019/2/7** 「花王社会起業塾」レビューミーティングを開催
- ●一般社団法人RAC
- ●アップシードビーンズ株式会社
- ●株式会社hanabana

花王ファミリーコンサート





■プログラム概要

事業場立地地域で、地域の方々に質の高い音楽に触れる機会を提供し、音楽や芸術を楽しんでいただくためのコンサートを開催している。 コンサートは、地域貢献と文化支援、社会支援を融合した花王ならでは のプログラム。企画から当日の会場整理、会場アナウンス、切符切り等 の運営を、すべて社員の手づくりで行なっている。

チケット収入は全額、公演開催地域の音楽教育事業などに役立てていた だくよう寄付している。

2002年から累計で40公演を開催。来場者数は、累計約37,000人。

<2018年の活動>

- ・4月22日、栃木県益子町にて 森麻季氏(ソプラノ)公演を開催
 - 来場者 867人
 - チケット収入を益子町、市貝町 に寄付
- ・10月28日、山形県酒田市にて 牛田智大氏(ピアノ)公演を開催
 - 来場者 962人
 - チケット収入を酒田市に寄付

<今後の取り組み予定>

2019年度は、4月栃木、5月和歌山、9月酒田、11月西条にて、公演予定

■活動詳細

・2018年度は栃木県益子町、山形県酒田市の2カ所で開催。

■来場者の声

「素敵な歌とピアノで良い休日を過ごすことができた」「最高の演奏と曲の紹介を交えたトークも楽しめた」「花王ファミリーコンサートのコンセプトにふさわしい良いコンサートだった」「なかなか遠くまで行くことができないので毎回楽しみにしている」「手ごろな値段で聴くことができ、ありがたい」などの声が

寄せられた。

コンサートの運営に携わる社員にとっては、 お客様から「楽しかった。ありがとう」 などのお声かけが、モチベーションの向上 につながっている。



詳細リンク:次頁

花王ファミリーコンサート



- ■詳細リンク
- ●2018/5/16 「花王ファミリーコンサート in 栃木」公演を開催
- ●2018/11/14 「花王ファミリーコンサート in 酒田」を開催

情報のバリアフリー(その他)





■プログラム概要

花王は、日常生活に欠かせない製品を提供する企業として、社会に暮らすすべての人々が、分け隔てなく快適で豊かな日常生活を営んでいくことができるように、バリアフリーを推進し、その理解をめざす活動を行なっている。

特に、情報化が進む中で取り残されがちな、視覚障がい者や高齢者に向けた情報のバリアフリーに取り組み、製品の点字シールの提供や、 生活情報を音声化して提供する取り組みなどを行なっている。

<2018年の活動>

- ●情報のバリアフリー
- ・点字シール無償提供:72件 (家庭品/化粧品) (化粧品シール改訂後:613件)
- ・からだのノートCD版 改訂
- 生活情報提供:ホームライフ7月号 社員ボランティア 3人が協力
- ・バリアフリービデオ寄贈 15件
- ・生活情報音声CDの無償提供 38件
- ●福祉施設への製品寄贈 年2回

<**今後の取り組み予定**> 2019年度も活動を継続。

■活動詳細

【情報のバリアフリー】

- ・化粧品点字シールと、初経教育教材「からだのノート CD版」を改訂。 ⇒活動トピックス 5ページ参照
- ・日本点字図書館発行の会員向け音声情報誌「ホームライフ」7月号に 季節の生活情報の提供を行なうとともに、社員ボランティアが音声 情報の収録に朗読で協力。
- ・視覚に障がいのある方々の生活の不便さを伝え、理解を図る内容の バリアフリービデオを学校等に寄贈。総合学習の教材として活用。

【福祉施設への製品寄贈】

社会福祉協議会と連携して選定した団体や社会福祉施設と民間の 運営する滞在型施設(病児家族滞在施設「ファミリーハウス」、あしなが育英会運営の滞在施設、民間運営の子どものためのシェルター や自立援助ホームなど)に花王製品を寄贈。

■詳細リンク:次頁

情報のバリアフリー(その他)



■詳細リンク

- ●2019/1/31 花王グループ、「化粧品点字シール」(墨字入り)をリニューアル
- ●2019/1/31 花王初経教育教材「からだのノート おとなになるということ CD版」を改訂
- ●バリアフリービデオ(4話収録版)のご案内



社員参加型の活動

企業の中の個々人は、企業の理念をよく理解し、その行動指針を身をもって実践していくべきであると花王は考えています。私たち花王の社員は、積極的にコミュニティと関わり、社会的活動に参加できるような機会を提供しています。



花王ハートポケット倶楽部 (社員参加型活動)





<2018年の活動>

- · 会員数: 3,346人(2018年12月20日)
- 寄付件数: 54件、寄付金額12, 142千円
- ・地域助成:3県15団体
- 大型助成「みらいポケット基金」:4団体
- ・活動レポート発行部数:10,246部 (社内向け印刷物、年1回発行)
- ハートポケット倶楽部新聞発行回数:7回(イントラ掲載)
- ・活動報告会開催:1回(社内イベント)

<今後の取り組み予定>

情報発信とボランティア参加の強化

■プログラム概要

2004年に開始した花王グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織。趣旨に賛同する社員が会員となり、毎月の給与から1口50円として、1口から100口の範囲で任意の金額を積み立て、NPO・NGO・市民団体への寄付、社員が参加するボランティア活動の実施に関わる支援、広域災害発生時の緊急支援などに役立てている。

寄付先や基金の使途の決定は、会員の代表である15人の運営委員で構成 される運営委員会で決定する仕組み。

よりよい社会づくりをめざし、社会課題解決に取り組む活動へ支援を行なうとともに、社員に社会参加の機会を提供し、社会的感度を高めることに寄与する。

■活動詳細

2018年度は、社内向け情報発信に注力。

・社内イントラを通じ、寄付先やボランティア活動を紹介する「ハートポケット倶楽部新聞」を7回発行し、また、寄付先とのコミュニケーションの機会として活動報告会を開催した。

社員からは「多様化する課題にさまざまなアプローチで取り組んでいることがよく分かり、会社が支援していることを社員として誇りに思う。」といった声が寄せられ、参加後に寄付先の活動や事務局として運営に参加する行動変容もあった。

・今後は新たに会員に加わった カネボウグループ社員と共に 活動を活性化していく。



花王グループピンクリボンキャンペーン





■プログラム概要

「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見の大切さを啓発するピンクリボンキャンペーンを毎年10~11月の2か月間実施。2007年に活動を開始し、現在は日本を含めた9か国・地域で展開。

化粧品店頭にてお客様へお渡しするリーフレットやオンライン媒体を通じて、乳がんに関する基本情報やセルフチェックの方法をお伝えするほか、日本国内では新たに中学校・高校でのがん教育に関わるプロジェクトの支援を開始するなど、幅広いステークホルダーへの啓発をめざしている。

キャンペーン監修:認定NPO法人 乳房健康研究会

<2018年の活動>

- ・日本では「ピンクリボンアドバイ ザーによるがん教育プロジェクト」 (主催:乳房健康研究会)の支援を 開始。
- ・新たにシンガポール(ソフィーナ)、 ロシア(KANEBO)で活動開始。

く今後の取り組み予定>

がん教育プロジェクトのさらなる 展開の支援、花王グループのリソ ースをより生かした支援を検討

■活動詳細

・「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」の 支援開始(主催:認定NPO法人 乳房健康研究会)

現在日本では、2人に1人ががんにかかるといわれている。がんへの正しい理解・知識を身につけるため、文科省は、学校でのがん教育の実施を進めており、医療関係者やがんサバイバーによる外部講師の活躍が期待されている。この「がん教育プロジェクト」は、がんを経験したピンクリボンアドバイザーが学校に赴き授業を行なうもので、全国の中学校・高校で実施できるような運営体制構築をめざし、2018年から活動を開始した。

・KANEBO スキン グロス オイル ウォーター1本購入につき100円を 上記「がん教育プロジェクト」に寄付



メセナ

文化や芸術に関わる活動を通して、人々の豊かな生活文化の実現に貢献するために、優れた芸術文化の発展と継承や担い手となる次世代の育成活動支援を積極的に行なっています。



メセナ (若手芸術家育成支援)





写真:堀田 力丸 写真提供:東京文化会館

■プログラム概要

東京音楽コンクール:次世代の才能ある人材を発掘・育成することを目的に東京都・東京文化会館・読売新聞社と2003年より共催している。本コンクールは、入賞者の音楽家としての育成にポイントをおいていることが特徴で、入賞者に対し、コンクールの翌年度以降5年間の単独での演奏活動では、東京文化会館がバックアップを行なっている。

K-BALLET YOUTH公演支援: 22歳までの若手ダンサーを中心とした、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニー。次世代の才能あるダンサーの発掘と、プロフェッショナル・カンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、バレエ文化の土壌を豊かなものにするために活動を支援している。

<2018年の活動>

●東京音楽コンクール

・応募者数: 369人・入賞者数: 11人

●K-BALLET YOUTH

・オーディション応募者数: 112人

合格者数: 80人

<今後の取り組み予定>

●第17回東京音楽コンクール ピアノ部門、木管部門、声楽部門 2019年4月~8月開催

●K-BALLET YOUTH 第4回記念公演「くるみ割り人形」 2019年8月3日、4日

■活動詳細

【東京音楽コンクール】

「第16回東京音楽コンクール」を開催。4月に弦楽、金管、声楽の3部門の応募受付を行ない、第一次予選と第二次予選を経て8月27日から31日にかけて本選が行なわれ、各部門の入賞者が決定した。

[K-BALLET YOUTH]

第4回記念公演「くるみ割り人形」が決定し、2018年9月に全国から 応募者が集まりオーディション実施。80人のダンサーが決まった。

2019年8月の公演まで、プロと遜色ない環境下で技術と表現力向上のため、リハーサルを続ける。





メセナ (芸術文化活動支援)





■プログラム概要

優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に、芸術文化活動支援を行なっている。

日本を代表する交響楽団の賛助や公演への協賛、舞台芸術では新国立劇場の特別支援企業グループ協賛、美術分野では新聞社主催の大型美術展への協賛を行なっている。

あらゆる世代の人々に芸術に親しんでいただき、次世代に優れた芸術文 化活動が継承されるよう、積極的に支援を行なっている。

<2018年の活動>

- ●音楽公演協賛 N響「第九」
- ●新国立劇場協賛 2017年8月から2018年7月の88公演
- ●美術展協賛 「プラド美術館展」 2月24日~10月14日(東京・神戸) 「ピエール・ボナール展」 9月26日~12月17日(東京)

<今後の取り組み予定>

- ●新国立劇場2018/2019シーズン協賛
- ●「ウィーン・モダン展」協賛 4月24日~12月8日(東京・大阪)

■活動詳細

【交響楽団への賛助】

NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、 日本フィルハーモニー交響楽団の運営支援

【音楽公演】

NHK交響楽団 ベートーヴェン「第九」公演協賛 (2018年12月22日、23日、24日開催)

【舞台芸術】

新国立劇場 2017/2018シーズン 特別支援 企業グループ協賛と、開場20周年記念特別 公演「ニューイヤーバレエ」協賛

【美術展】

「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」 「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナ ール展」協替







東日本大震災への取り組み

花王では、現在「心のケア」と「自立的復興(産業復興)」を2つの柱に、花王のリソースを生かしながら、NPO・企業・多様な組織と連携し、現地のニーズや課題に沿った活動を行なっています。これからも東北の未来に向けて、活動を継続していきます。



東日本大震災への取り組み(花王G社員による活動)





■プログラム概要

既存の社会貢献ブログラムや花王グループのリソースを生かしながら、NPO・企業・多様な組織と連携し、現地のニーズや課題に沿った活動を実施。現在は「心のケア」と「自立的復興」の2つを柱に取り組む。「心のケア」では、スマイルとうほくプロジェクトに2012年より協賛。仮設住宅や災害公営住宅訪問を通じた交流や新しい暮らしを応援する取り組みを実施。「自立的復興」では、東北の復興に向け、中心となって活躍している復興リーダーの支援や社員ボランティアの活動を通じて、産業の復興やコミュニティづくりを支える活動を支援している。

<2018年の活動>

- ●東北と『食』でつながる3日間 3月7~9日、茅場町事業場食堂で実施
- ●復興支援活動の取り組みパネル展示 全国花王グループ工場・事業場 11カ所 KCMK(販売) 95拠点
- ●宮城県南三陸町ボランティア 10月6~7日、 社員 23人参加
- ●スマイルとうほくプロジェクト (岩手日報、河北新報、福島民報主催) 訪問活動:8カ所(岩手・宮城各2カ所、 福島4カ所)

県別活動:釜石市(岩手) 名取市(宮城)、飯館村(福島)

<**今後の取り組み予定>** 2019年度も継続して活動予定

■活動詳細

- ・研究開発部門の健康知見を生かして、一般社団法人りぷらすが主催する「おたからサポーター養成講座」へ協力。住民同士が健康を支えあう仕組みづくりに寄与。また、石巻市川の上地区における既存住民の皆さんの健康度向上とコミュニティ形成のサポートを継続。
- ・「いつまでも震災を忘れない」との思いから「東北と『食』でつながる3日間」をテーマに、3月7日~9日まで、花王茅場町事業場・社員食堂において、東北6県の食材を使用した昼食メニュー企画を実施。身近な『食』をテーマとすることで、食材の産地である東北に思いを馳せ、改めて復興や防災について考えるきっかけづくりを行なった。・スマイルとうほくプロジェクトでは、被災地に笑顔を広げ、日本中に笑顔を届けることをめざし、災害公営住宅などの訪問をはじめ、東

北の皆さんの未来に向け新たな暮らしを応援 する取り組みを県別で実施し、社員が参加。 各県の状況や異なるニーズにあわせた、より 地域の課題に寄り添った活動を行なった。





東日本大震災への取り組み(みちのく復興事業パートナーズ)





■プログラム概要

「自立的復興」の大きな活動のひとつとして、みちのく復興事業パートナーズに参画している。2012年6月、企業がそれぞれのリソースを活用し、被災地で事業に取り組み東北を支えていく次世代の復興リーダーを支援する企業コンソーシアムとして、特定非営利活動法人ETIC. (エティック)によって「みちのく復興事業パートナーズ」が設立され、現在、企業4社*が参画。将来東北の中心となることが期待される事業団体に向けた研修や、現地のニーズを可視化し、企業のリソースとマッチングさせる支援を行なっている。また、毎年3月にはシンポジウムを開催し、東北の現状や未来について広く情報発信を行なっている。

*参画企業:株式会社ジェー・シー・ビー、株式会社電通、株式会社 ベネッセホールディングス、花王株式会社(2018年5月現在)

<2018年の活動>

●みちのく復興事業シンポジウム 2018年3月6日、電通ホールで実施 来場者: 134人

(花王社員 27人参加)

●みちのく事業ブラッシュアップ・ キャンプ

2019年1月10~11日、仙台市で実施

参加団体: 53団体 参加人数: 70人

<今後の取り組み予定>

2019年度も継続して支援

■活動詳細

・コンソーシアム全体での取り組み「みちのく復興事業シンポジウム」 東北の現状や復興の様子を次世代リーダーの取り組みを通して紹介し、 未来に向けて企業がどのように連携できるかを考える機会を提供。 2018年3月には『「未来予測」より「未来意志」―最前線・福島から―』 のテーマで、「未来意志」をキーワードに、シンポジウムを開催。 福島にフォーカスして、これまでとこれからの地域の在り方を多方面 から考察。CSR担当者・社会貢献担当者などが参加。

・事業ブラッシュアップ・プログラム これからの地域を支えるような特定テーマを牽引 することが期待される団体の、ビジョンのブラッ シュアップや広く団体同士がつながる機会の提供 を行なった。



詳細リンク:次頁

東日本大震災への取り組み



■詳細リンク

東日本大震災への取り組み(花王G社員による活動)

- ●2018/4/5 東日本大震災復興応援企画「東北と『食』でつながる3日間」を開催
- ●2018/8/6 今年もスマイルとうほくプロジェクトの活動を開始
- ●2018/11/2 南三陸町を訪れ、現地見学と農業ボランティア体験 第5弾を実施
- ●2018/12/27 花王の健康知見を生かして行政と連携した健康づくり活動を実施

東日本大震災への取り組み(みちのく復興事業パートナーズ)

- ●2018/2/27 「第6回みちのく復興事業シンポジウム」開催のご案内
- ●2019/2/19 東北の事業団体に向けて「事業ブラッシュ・アップキャンプ2019」を開催

海外での活動

世界中の人々や子供たちが、より清潔で健やかな毎日を送り、自分らしく生きられるように、清潔な水やトイレなどの衛生環境づくり、正しい生活習慣の定着を支援します。



©UNICEF Indonesia/2018

2018年 海外の主な活動



■初経教育・月経衛生管理啓発

話題にするのを避けられがちで正しい知識が十分に得られにくい月経について、 女の子たちが安心して初経を迎え、月経期間を自分らしくアクティブに過ごせる ように、また、トイレなどの設備が整っていないことで、月経に適切に対応でき ていない女の子たちがより衛生的に過ごせるように、花王グループは、初経教育 や月経衛生啓発、衛生設備改善の支援を実施している。



- ・花王インドネシア ⇒詳細は、34ページ参照
- ・花王(上海)産品服務有限公司(中国) 子どもたちに月経の正しい知識を伝えるため、学校を訪問し初経に関する教育 と生理用品サンプリングを行なう、初経教育キャンペーンを実施。 実績:26校、約5,000人の生徒へ教育実施
- ・花王(台湾) 初めて月経を迎える小学校4~6年生の女子生徒に、生理用品の使い方や身体の ケア方法など正しい知識を伝えるため初経教育を実施。生理用品のサンプルや ハンドブックも配布。ロリエのWebサイトやfacebookでも情報を共有。
- ・花王(合肥)有限公司(中国)、Kao Vietnam、Kao Malaysiaでも実施



■自己肯定感、セルフェステーム教育

花王(インドネシア)では、NGO (YCAB)と共同で、中学生の自己肯定感向上に向けた教育を実施。学業にも影響のあるいじめやその他の問題に対し、自分自身や身の回りの環境を清潔に保つ方法を知ることで、自己肯定感を高め前向きに過ごせるようになることを目指す。2018年はジャカルタ、チカラン、カラワンの35校、2000人以上の子どもたちが参加。

・花王スペシャルティアメリカズでも実施。



ベトナム学校衛生プロジェクト





■プログラム概要

「学校衛生プロジェクト」は、学校やコミュニティへ衛生啓発を行なうことで、子ども達が正しい衛生習慣を身につけ、安心した毎日を過ごせることをめざして、ユニセフと連携し、2016年から支援を開始。

ベトナムは人口の増加と共に著しい経済成長を遂げている一方で、農村 地域は経済的に厳しく、清潔・衛生環境も整っていないため、慢性の下 痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されている。

事業展開国でもあるベトナムで、事業にも関連の深い「水と衛生」というグローバルな社会課題の解決に貢献していくため、衛生設備の設置と 改善、衛生習慣の定着推進、衛生リーダーの育成の支援を行ない、野外 排泄根絶を目指す。

<2018年の活動>

- ・アンザン省の7校2,100人の生徒への 衛生教育を実施
- アンザン省の幼稚園2園のトイレや衛生 設備を改良
- ・約100人のボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成
- ・アンザン省の40校(約12,000人)に セラミックフィルター付浄水器を支援
- ・ディエンビエン省の遠隔地22校において基礎調査を実施

<今後の取り組み予定>

2020年までに60校、35,000人の子ども たちを支援予定

■活動詳細

- ・南部メコン川流域のアンザン省で累計240村で屋外排泄根絶達成の 後押しをするなど、一定の成果が得られたため、2018年より少数民 族の多い北部山岳地帯のディエンビエン省にも活動を拡大。
- ・衛生設備の改善と設置、衛生習慣の定着に向けた支援を行なうため、 学校主導型、コミュニティ主導型の両面からのアプローチを行なう。 〈学校主導型〉
- ・学校のトイレや手洗い場など衛生設備の 設置や改善
- ・衛生習慣に関する教員へのトレーニング <コミュニティ主導型>
- ・衛生習慣に関するコミュニティリーダー の育成
- トリガリングセッションの実施



インドネシア月経衛生管理プロジェクト





■プログラム概要

インドネシアでは、月経の正しい知識が十分に普及しておらず、4人に 1人が初経までに月経の知識がなく、様々な迷信や偏見も依然存在する。 また学校における教育や衛生環境が十分に整っておらず、6人に1人が月 経時に1日以上学校を休み、女子生徒の出席率低下の一因になっている。 2018年からインドネシアで、国連児童基金(ユニセフ)による「月経衛 生管理プロジェクト」の支援を開始。

子どもたちが月経衛生についての総合的な知識を増やせるよう、バンテン州タンゲラン県において、指導教員の育成や生徒参加型の教材開発など、行動変容に向けた啓発活動実施の支援を行なう。

<2018年の活動>

- ・活動校40校の選定
- ・世界月経デー周辺に県とのプロジェクトの発足会合、署名式実施。 地方政府行政官や支援校の校長・教員、花王インドネシア含む70人参加。
- ・指導教員8人の選出とトレーニング。
- ・世界月経デーのSNSオンラインキャンペーン実施。200万人にリーチ。

く今後の取り組み予定>

2020年までに40校、12,000人以上の生徒への授業実施、2,500人以上の生徒の行動変容を目指す

■活動詳細

- ・2019年から、中学校で指導を行なうための指導教員(メンター)8人が選出され、今後の活動にあたってのボトルネックを確認し、今後の教育計画を検討するワークショップが開催された。
- ・中学校の視察と中学生のグループインタビューを実施し、月経についての意識・情報の確認や、情報ツールとして希望する形態や内容について意見収集を行なった。



災害支援

災害支援



災害	会社	支援内容
大阪北部地震	花王(株)	中央共同募金会を通じて、20万円の寄付と被災者 救援活動支援として社員寄付組織の花王ハートポ ケット倶楽部から20万円を寄付。また、約120万円 相当の物資支援を行なった。
西日本水害	花王(株)	日本赤十字社を通じて2,000万円の寄付と、被災者 救援活動支援として中央共同募金会を通じて社員 寄付組織の花王ハートポケット倶楽部から50万円 を寄付。また、岡山県、広島県、愛媛県へ総額約 500万円相当の物資支援を行なった。
北海道胆振東部地震	花王(株)	日本赤十字社を通じて1,000万円の寄付と、被災者 救援活動支援として中央共同募金会を通じて社員 寄付組織の花王ハートポケット倶楽部から20万円 を寄付。150万円相当の物資支援を行なった。
台風21号	花王(株)	中央共同募金会を通じて20万円の寄付と被災者救援活動支援として社員寄付組織の花王ハートポケット倶楽部から20万円を寄付。

災害支援



災害	会社	支援内容
台湾東部 花蓮地震	花王台湾 台灣カネボウ化粧品股份 有限公司	被災者支援のため、花蓮県へ花王台湾、台灣カネ ボウ化粧品股份有限公司から750万円相当の寄付
ラオス ダム決壊 (Laos dam collapse)	花王タイ	被災者支援のため10万円相当の製品寄贈
インドネシア地震 (Lombok Earthquake)	花王インドネシア	被災者支援のため40万円相当の製品寄贈
インドネシア地震・津波	花王(株)	特定非営利活動法人ジャパンプラットフォームを 通じて被災者救援活動支援として150万円を寄付。
(Sulawesi Earthquake and Tsunami)	花王インドネシア	被災者支援のため16万円相当の製品寄贈および 100万円相当の寄付
インドネシア津波 (Tsunami Selat Sunda 2018)	花王インドネシア	被災者支援のため20万円相当の寄付
アメリカトルネード (Greensboro Tornado)	花王スペシャルティーズ アメリカズ	被災者支援のため30万円相当の寄付
アメリカハリケーン (Hurricane Florence)	花王スペシャルティーズ アメリカズ	被災者支援のため30万円相当の寄付



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

注動中 索 : 中结			
茅場町 事業場 (本社)	〈環境〉 ●近隣清掃 〈コミュニティ〉 ●たばこポイ捨て撲滅キャンペーン ●へ地域祭礼、中央区エコまつり OJAZZ EMP@Tokyo Financial Street 2018協賛、歳未たすけあい募金、夏休みラジオ体操		
すみだ 事業場 ・ 東京工場 東京研究所			
大阪 事業場	<環境> ●近隣清掃 <コミュニティ> ○各地祭礼、地域団体	A STATE OF	
小田原 事業場 ・ 小田原工場 (花王コスメプロダ クツ小田原) 小田原研究所	<環境> ●近隣清掃、クリーンさかわ <教育> ●ソフトボール教室 <コミュニティン ●〇工場見学 ○コンサート協賛、地域イベント、酒匂川花火大会協賛	5	



山王祭(茅場町)



清掃活動(大阪)



クリーンさかわ (小田原)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

	活動内容・実績	
酒田工場	< 環境 > ●さかた産業フェア <コミュニティ> ●○工場見学、花王夏祭り ●花王ファミリーコンサート、やまがた健康フェア ○酒田創意くふう展、新生児紙おむつ寄贈、地域イベント・祭り、スポーツ大会、花火大会、地域団体、庄内よいふろキャラバン	
栃木工場 栃木研究所		
鹿島工場		



花王夏祭り (酒田)



花王健康セミナー (栃木)



海岸清掃(鹿島)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

	活動内容•実績
	注 <コミュニティ> <教育> ● ○ カ 花王の企業活動を正しく伝え、地域社会や生活者関係構築や、子ど もたちへの教育への貢献をめざして工場見学を実施。 動 【2018年実績:工場見学数 367件、18,575人】
川崎工場	<環境> ●清掃活動 <コミュニティ> ○●若宮八幡宮などでの祭礼、夏祭りでの地域交流、親善バレーボール 大会 ○地域イベント・祭り、町内運動会、地域祭礼
富士工場 (花王製紙富 士)	
豊橋工場	<環境> ●近隣清掃、豊橋530運動 <コミュニティ> ●○工場見学 ●地域イベント



工場見学(川崎)



親善バレーボール大会 (川崎)



530運動(豊橋)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

	活動内容•実績			
	注 カ <環境>●○ 活 世界遺産の熊野古道を保全、修繕する道普請の活動支援 動			
和歌山工場和歌山研究所				
花王エコラボ	注 〈教育〉●○ カ 働く人、モノづくり、環境に関する理解を深めるため、小学校3年生、 5年生の社会科の単元に則した工場見学プログラムを実施。 動 【2018年実績:来校数 85校、4,466人】			
ミュージアム(和歌山)	<環境> ○薬学生実務研修支援 〈教育〉 ●○環境教育支援 <コミュニティ〉 ●○親子見学会			



世界遺産保全活動 (和歌山)



水軒川沿い清掃 (和歌山)



親子見学会(エコラボ)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

	活動内容・実績		
愛媛工場 (花王サニタリー プロダクツ愛媛)	<コミュニティ> ●○工場見学 ○地域イベント・祭り、花火大会、社会福祉のための共同募金		
有田研修所	< 環境 > ●近隣清掃 	ij	
品川研修所	<コミュニティ> ●花王国際こども環境絵画コンテスト 受賞作品展示		
花王グループ カスタマー マーケティング 株式会社 (K CMK)	〈環境〉 ●近隣清掃、環境に関するイベント 〈教育〉 ●切手・はがき・使用済みプリペイドカード・キャップ回収、美容講座、手洗い講習、献血 〈コミュニティ〉 ○地域交流会 		
花王ロジスティ クス株式会社	<環境> ●近隣清掃 <教育> ●交通安全教室、職場体験実習 <コミュニティ> ●交通安全啓発、献血、施設見学		



環境絵画展示(品川)



交通安全教室 (花王ロジスティクス)



職場体験実習 (花王ロジスティクス)



<u>→ 사무수+</u>□ 人 制口 物口安附 安什

●∶社員参加	○:製品•物品寄贈、寄付 ◎施設開放			
	活動内容・実績			
花王プロフェッ ショナル・サ <i>ー</i> ビ	注			
ス株式会社 (KPS)	〈教育〉 ●専門学生、看護学生、看護師対象の講義・演習 〈コミュニティ〉 ●セミナー演習支援、感染症講習会、地域への衛生啓発 ○災害備蓄用のおむつ寄贈			
	注 カ			
株式会社カネボウ化粧品				



ピンクリボン 寄付感謝状 (カネボウ化粧品)



●:社員参加 ○:製品•物品寄贈、寄付 ◎施設開放

活動内容•実績

活動写真



節水啓発活動(中国)

力 活

<環境>●○

節水の大切さと環境保護意識を喚起するため、 中国清潔・節水全国運動を全国の大学にて実施。 活動内容は企業ホームページの特設サイトで公 開。

【2018年実績】

-64校、22万人の大学生が参加

https://www.kao.com/jp/corporate/news/2018/ 20180322-002/(ニュースリリース)

中国

-Kao (China) Research and Development Center

-Kao (China) Holding

-Kao Commercial

-Kao(Hefei)

(Shanghai)

-Kao Corporation Shanghai

く環境>

- ●近隣清掃
- 〇環境絵画コンテスト

<教育>

- ●初経教育
- ●○Enactus支援、大学生日本語スピーチ大会

くコミュニティン

- ●母子衛生健康講座、大学生との交流
- ●○工場見学、納涼祭、献血、販売活動への参加、 恵まれない人たちに向けた給食支援
- 〇健康講座、スポーツ大会



母子衛生健康講座 (中国)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

		活動内容•実績	
中国	-Kao Chemical Corporation Shanghai -Kao Trading Corporation Shanghai -Huludao Jinzing Casting Material - Kao (Shanghai) Chemical Industries	<環境> ●近隣清掃 <コミュニティ> ●献血 ●○地域と連携した消防・防災訓練、納涼祭	
	Kanebo Cosmetics	<コミュニティ> ●○日本大使館イベント支援 ○慈善スーパーへの寄付、チャリティイベント	
香港	-Kao (Hong Kong)	<環境> ○環境啓発活動支援 <コミュニティ> ○恵まれない家庭支援	



近隣清掃(中国)



納涼祭(中国)



環境啓発活動支援 (香港)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

	活動内容•実績		
		注 <教育>●○ カ 子どもの衛生習慣の定着をめざし、掃除教育を 実施。活動は社内雑誌で社員共有。 動 【目標:年間500校、50,000人の参加者】	
台湾	-Kao (Taiwan) Corporation	<環境> ●○海岸清掃、植樹 <教育> ●○月経教育 ○大学支援 <コミュニティ> ●会社紹介 ●○工場見学 ○高齢者、恵まれない人たちへの支援	
	-Taiwan Kanebo Cosmetics	<環境> ●海岸清掃 <コミュニティ> ○ピンクリボンキャンペーン、福祉施設支援	
ベトナム	-Kao Vietnam	〈教育〉 ●幼稚園・小学校への衛生啓発・教育支援 ●○大学への衛生啓発・教育支援、月経教育 <コミュニティ〉 耐血、子ども福祉のためのニューイヤーカード	



掃除教育(台湾)



植樹(台湾)



月経教育(ベトナム)



●:社員参加 ○∶製品•物品寄贈、寄付 ◎施設開放

活動内容•実績 <教育>○ 優秀な生徒に質の高い教育機会を提供すること が目的に、工場近くの小学校2校に通う成績上位 5人に奨学金、無料の制服、靴、本、毎月の現金 手当を支給。 【2018年実績:支援者数60人】 フィリ -Pilipinas Kao ピン く環境> ●○近隣清掃 ○マングローブ植林 くコミュニティン ●○工場見学 ○工場近隣の小学校・高校の修繕への寄付、地域住 民の医療受診支援、地域伝統文化支援



成績優秀者の進学支援 (フィリピン)



近隣清掃(フィリピン)



医療受診支援 (フィリピン)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

	活動内容・実績		
			<教育>● 農村部の警察学校のトイレを改装・改築支援。 【目標:年間4校のトイレを改善】
タイ	-Kao Industrial (Thailand)	注力活動	〈教育〉●○ 衛生習慣定着を目的に、手洗いキャンペーンを バンコクの小学校(1~3年生対象)で実施。 また、石鹸をバンコクの小学校へ寄贈。 【2018年実績】 -35校、6,000人の参加者 -437校、約290,000人の生徒へ石鹸寄贈
		◆	環境> 情掃活動、環境保護活動 改育> O衛生啓発 コミュニティ> L場見学、 O健康な生活のためのキャンペーン IPO・学校・団体へ製品の寄贈
	-Kanebo Cosmetics (Thailand)		コミュニティ> ブローバル人材育成、ピンクリボンキャンペーン



学校トイレ改装(タイ)



手洗いキャンペーン (タイ)



環境保護活動(タイ)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

		活動内容•実績	
	-Kao (Malaysia)	< 教育> ○初経教育	
マレーシア	-Fatty Chemical (Malaysia) -Kao Plasticizer (Malaysia) Kao Oleochemical (Malaysia) -Kao Soap (Malaysia)	〈環境〉 ●○子どもたちへの環境啓発 〈教育〉 ●生徒対象の英語教室 〈コミュニティ〉 ●技術支援 ●○工場見学、献血、高齢者施設・孤児院・障がい者施設との人的交流と製品寄贈 ○障がい児絵画購入、日本文化イベント、防災プログラム、スポーツ大会、	J.SERO.
シンガポール	-Kao Singapore Pte. Ltd.	<教育> ●衛生教育 <コミュニティ> ●高齢者住宅への掃除支援 ○ナショナルパレードに関するイベントの支援、大学への支援	



初経教育(マレーシア)



衛生教育 (シンガポール)



高齢者掃除支援 (シンガポール)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

		活動内容•実績
インド ネシ ア	-PT Kao Indonesia	<環境>○植樹 <教育> ●○自己啓発教育 <コミュニティ> ●工場見学 ○福祉支援、製品寄贈による地域支援
	-PT. Kao Indonesia Chemicals	<コミュニティ> ●○献血、工場見学
オー スト ラリ ア	-Kao Australia	<コミュニティ>
カナダ	-Kao Canada	〈教育〉 ○理美容奨学金やその他支援 〈コミュニティ〉 ●職業訓練校のプロムでのヘアメイクサービスなどの支援 ●〇チャリティイベントなどへの支援 ○チャリティ団体へのマッチング寄付



福祉支援 (インドネシア)



地域支援 (インドネシア)



献血 (インドネシア)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

活動内容・実績				
アメリカ	-Kao USA	<環境> ●環境エキスポ ●○地域清掃 <コミュニティ> ●○慈善活動団体を通じた支援、地域の芸術・恵まれない子供などへの支援、早産防止等研究への支援、他		
	-Kao Specialties Americas			
メキシコ	-Quimi-Kao. S.A. de C.V.			



ハイウェイクリーンアップ (米国)



日本語弁論大会(米国)



福祉施設支援 (メキシコ)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

活動内容・実績				
ロシア	-Kanebo Cosmetics Rus	<コミュニティ> モスクワ日本人学校開催のイベント支援		
ドイツ	-Kao Germany GmbH	<環境> ○環境啓発プログラム <コミュニティ> ○恵まれない子どもたちや家庭の支援、絵画コンテスト		
	-Kao Chemical GmbH	<環境> ○河川清掃 <教育> ○近隣学校支援 <コミュニティ> ●工場見学 ○地域団体・NPO/NGOへの支援、障がい者支援		
スペイン	-Kao Corporation S.A.	<環境> ○植樹イベント 〈教育〉 ○化学専攻の高校生への助成金 〈コミュニティ〉 ●工場見学 ○地域研究のサポート、地域コンサート、地域スポーツクラブ支援、チャリティ団体へのマッチング寄付		



工場見学(ドイツ)



植樹イベント(スペイン)



教育支援(スペイン)



●:社員参加 ○:製品・物品寄贈、寄付 ◎施設開放

活動内容・実績				
ベネルクス	-Kao Netherland B.V. -Kao Belgium N.V. -Guhl Ikebana Netherlands B.V.	<コミュニティ> ●高齢者施設の支援活動○チャリティイベント		
南ア フリカ	-Kao South Africa	<コミュニティ> ○福祉団体支援		



チャリティイベント (ベネルクス)